

肝属の特性を生かしたブランド品目の高品質野菜産地づくり ～Iターン新規就農者の挑戦～

所 属 名：大隅地域振興局農政普及課
発表者名：松ノ下 和輝

<活動事例の要旨>

肝付町カラーピーマン産地化プロジェクトにおいて、各関係機関と連携の下、産地化に向け単価向上及び費用削減を目指した技術実証に取り組んできた。しかし、輸入増加による契約単価下落を受け、カラーピーマンでの経営確立が難しくなる中、経営分析と改善策提案等を行い、検討を重ねた結果、8戸のIターン新規就農者が新たな品目グリーンピーマンへと品目転換し、地域の生産者に支えられながら、経営確立に取り組んでいる。

1 計画された活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

- ア Iターン就農者の定着を目指し、経営の安定化を図る必要がある。
- イ A品率及び平均単価の低下要因となる生理障害（果実表面のひび割れ）について、発生要因の解明及び発生低減新系統の栽培実証に取り組み、単価向上を図る必要がある。
- ウ 決算書等をもとに経営分析及びシミュレーションを行い、品目転換等も視野に入れた経営改善策を検討する必要がある。また、技術面・販売面等の転換にかかる課題に対し、産地一体となって解決する必要がある。

(2) 計画の策定過程

- ア 平成20年度より肝付町カラーピーマン産地化プロジェクトが始動し、内之浦経済連トレーニングセンター及び肝付町農業振興センターにて、研修生制度と新規就農者育成が開始され、現在までに12名の研修修了生が輩出された。
- イ 研修修了生を中心に構成される肝付カラーピーマン部会は、単収・単価ともに目標を達成しておらず、部会員の経営状況も芳しくない。
- ウ 農政普及課では、平成20年度より普及指導計画の重点課題に位置づけ、新規品目の栽培技術確立、新規品目の産地育成、カラーピーマン経営体の育成、新規就農者育成支援等、Iターン新規就農者の定着に向けた各種支援を行ってきた。

2 普及活動の内容

(1) 活動の経過

- ア 生理障害（果実表面のひび割れ）発生要因の解明に向け、実証農家を含め関係機関と連携の下、ハウス内外の温湿度及び果実品温推移についてデータ収集・解析を行った。
- イ ひび果発生低減品種の導入を目指し、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業において開発中であるシグナル新系統について、実証農家を含め関係機関と連携の下、現地栽培実証、収量及び生育調査を行った。
- ウ 経営体育成支援事業重点対象農家及び新たにハウス建設を行った新規部会員を中心に、決算書等をもとにした経営分析及びシミュレーションを行い、品目転換をも視野に入れた経営改善検討を行った。
- エ 経営確立に向け、転換品目であるグリーンピーマンの技術確立を図るため、また技術及び経営の課題解決を図るため、月1回の研修会・現地検討会や、地域の先進農家視察等を実施した。既存の生産者等との関係性構築を図るため、関係機関も交えた検討会を実施した。

(2) 指導・支援の体制

- ・肝属指導農業士会
- ・肝付町カラーピーマン産地化プロジェクト班会
 - ア 肝付町（班会事務局、企画調整）

- イ 一般財団法人肝付町農業振興センター（研修生への技術経営指導，就農支援）
 - ウ 鹿児島きもつき農業協同組合高山支所，内之浦支所（部会事務局，営農指導）
 - エ 鹿児島くみあい食品株式会社（販売，出荷指導）
 - オ 大隅地域振興局農政普及課（技術経営指導，組織育成指導，技術実証）
- ・鹿児島県農業開発総合センター園芸作物研究室

3 普及活動の成果

- (1) 課題及び目標の達成状況とその要因
 - ア ハウス内湿度の高推移がひび割れを助長することがわかり，結果を関係機関で検討し，研修会等を通し部会員へ周知した。実証農家ではヒートポンプの除湿機能による発生低減に取り組んでいる。
 - イ 新系統品種は慣行品種と比較して収量・品質ともに優れる結果となった。結果は関係機関で共有するとともに，研修会等を通し部会員へ周知した。新系統は令和3年度の品種化が予定されており，将来の導入に向け，部会5戸にて試験的に栽培中である。
 - ウ 経営分析・所得シミュレーション作成や品目転換検討，先進農家視察等を重ね，若手部会員8戸がグリーンピーマンへと品目転換を行った。
 - エ 月1回の研修会・現地検討会や，東串良町園芸振興会等の先進農家視察により，転換にかかる技術・経営課題解決能力の向上を図った。
 - オ 転換に必要な資金調達を目指し，経営シミュレーションを基にした資金計画作成支援を行い，スムーズな資金調達が実現した。
 - カ 決算書等をもとに経営分析を行い，経営体育成支援事業の重点対象農家については，転換後も所得の維持及び向上が図られつつある。
- (2) 活動に対する生産者・農家の評価
 - ア 部会員のは場を実証ほとして設定したことにより，課題解決への意欲が高まり，主体性を持って取り組むことができた。
 - イ 品目転換に当たっては，地域の指導農業士会及び先進農家の助言指導も受け，新規部会設立に向けて相互検討を重ねたり，先進農家視察の要請を行うなど，部会員の主体的が発揮されている。
- (3) 地域農業振興への貢献
 - ア 肝付町においては，研修修了生12戸全戸が現在も営農継続中であり，産地の担い手として活躍している。
 - イ 4 Hクラブや消防団等の組織活動を通じた地域貢献活動も積極的に行っている。

4 今後の普及活動に向けて

- (1) 今後の課題
 - ア グリーンピーマン部会では，単収14t /10a 達成に向け，基本・応用を交えた技術研修の継続，関係機関と連携した経営分析と改善策提示，先進農家との連携，振興会員及び先進農家等との関係性構築のコーディネートを行う必要がある。
- (2) 今後の活用に向けて
 - ア 組織の外部リーダーとして，各関係機関と連携の下，生産者が持つ主体性の維持・発展につながる普及活動を展開していく必要がある。